

基本評価シート

(愛媛県県民環境部 環境局 自然保護課)

基本評価シート（ニホンジカ）

1. 事業の基本情報

事業名（※1）	令和6年度 愛媛県指定管理鳥獣捕獲等事業実施計画（ニホンジカ） 委託業務		
	令和6年度 指定管理鳥獣（ニホンジカ）捕獲等委託業務		
都道府県名	愛媛県	担当者部・係名	県民環境部環境局 自然保護課 生物多様性係
担当者名	上野・吉川	担当者連絡先	089-912-2368
捕獲実施事業者	（一社）愛媛県猟友会 （株）野生動物保護管 理事務所 <u>（認定を受けている）</u> ・ 受けていない	予算額（※2）	20,489,000 円
		予算額の内捕獲 に要する経費 （※3）	10,350,000 円

（※1）交付金を用いて実施した事業名を記入。複数ある場合は、事業件名ごとに記入。

（※2）予算額は、交付金の対象となる指定管理鳥獣捕獲等事業の全体予算を記入する。

（※3）予算額の内、捕獲に要する経費は、平成28年度から適用される交付金所要額調書様式1-2「2 指定管理鳥獣の捕獲等」の内訳を記入。その他にも、捕獲に要する経費がある場合は、別途加算する。

○令和6年度における生息等の状況及びこれまでの個体群管理の取組み

〈指定管理鳥獣捕獲等事業の実績〉

事業目標 （目標頭数などの数値目標）	実施結果	
	捕獲頭数	目標達成率
70 頭	82 頭	117 %

〈生息等の状況及びその他の捕獲実績〉

推定生息頭数	特定計画管理目標	目標生息頭数
約 48,229 頭（令和5年度）	11,000 頭	平成26年度の半数に 近づける
狩猟捕獲数	許可捕獲（有害等）	許可捕獲（個体数調整）
1,639 頭（令和5年度）	9,211 頭（令和5年度）	82 頭（令和5年度）

○これまでの個体群管理の取組み（都道府県単独事業）

県単独事業による個体群管理の取組みは実施していない。

2. 令和6年度愛媛県指定管理鳥獣捕獲等事業委託業務の実施概要

項目	概要
事業背景・目的	愛媛県には、ニホンジカの生息数が多いと推定される地域が3地域（東予東部、東予西部・中予北東部、南予南部）ある。また、石鎚山系では自然植生被害が確認されており、被害が拡大し希少種へ影響することが懸念されており、第4次愛媛県ニホンジカ適正管理計画特定計画でも、重点的に捕獲を行う地域として整理されている。 県内のニホンジカの生息数は増加傾向にあると見られ、令和5年度推定頭数は48,229頭（中央値）と推定されている。ニホンジカの個体群管理を行い、年間11,000頭の捕獲目標を設定している。 以上の捕獲目標達成に取り組むべく、ニホンジカの個体群管理の一環として、指定管理鳥獣捕獲等事業を実施する。 ☒ 特定計画の管理目標に不足する捕獲数を高密度地域で上乗せした。 ☐ 分布拡大防止を目的として生息域の外縁で捕獲を実施した。 ☐ 効果的な捕獲手法の開発を行なった。
人材育成の観点	☒ 人材を育成するための配慮、取組がなされている。
実施期間	令和6年9月6日～令和7年2月28日 （うち、捕獲作業を行った期間9月20日～2月10日）
実施区域	生息密度が高いと推定される、東予東部地域（四国中央市、新居浜市）、東予西部・中予北東部地域（今治市、西条市）、南予南部地域（宇和島市、松野町）及び石鎚山系（西条市が含まれる）において実施した。 
関係機関との協力	関係市町と情報共有を図るとともに、国有林への入林届等、諸手続き等を適切に行い、協調性を保った業務を実施している。

3. 令和6年度愛媛県指定管理鳥獣捕獲等事業委託業務の評価

○指定管理鳥獣捕獲等事業の達成状況の評価について

1. 捕獲に関する評価及び改善点※	
【目標達成】	評 価： 捕獲目標頭数 70 頭に対し実績は 82 頭であり、目標は達成した。
	改善点： 今後も継続した捕獲事業を行う上で、捕獲の必要箇所と実施時期を見極め、次期計画の目標を設定する必要がある。
【実施期間】	評 価： 委託契約締結後、早期捕獲開始に努めた。石鎚山系での捕獲に関しては、前年度よりも早い時期での捕獲開始となった。一方、東予東部等の捕獲においては、前年度に比べて遅い実施となった。
	改善点： 委託契約締結を早め、捕獲実施の日数を可能な限りより早期に開始することにより捕獲実績を向上させる必要がある。
【実施区域】	評 価： 各地域で狩猟、有害鳥獣捕獲との棲み分けや、アウトドア関係者の入山の調整を必要とする等、事情が異なる。また、昨年度に引き続き、徳島県との県境付近での捕獲を行い、一定の頭数を捕獲した。各地域の実情を踏まえた捕獲方法や捕獲実施期間について検討する必要がある。
	改善点： 県で実施している糞塊密度調査の結果及び石鎚山系のセンサーカメラ調査等を踏まえ、引き続き生息密度が高い地区を絞り、効果的・効率的な捕獲実施につなげる必要がある。
【捕獲手法】	評 価： 銃器、くくりわなによる捕獲を主体とした。くくりわなによる捕獲と併用した東予西部・中予北東部地域では、東予東部および南予南部に比べ、捕獲頭数が多くなっている。東予東部、南予南部においても、従来から慣れがある猟法を使用した。
	改善点： 今後も、くくりわなによる捕獲の併用の推進及び地域に合わせた猟法の選択等、効果的・効率的な捕獲方法について検討を行う。
2. 体制整備に関する評価及び改善点	
【実施体制】	評 価： 銃器による捕獲は原則 5 人以上、くくりわなによる捕獲は原則 2 人以上の捕獲従事者を確保した。
	改善点： 今後も継続して実施する。
【個体処分】	評 価： 埋設、焼却等により適切に処分した。
	改善点： 今後も継続して実施する。なお、自家消費や処理施設に持ち込む場合は、捕獲従事者が適切に対処するよう徹底する。
【環境配慮】	評 価： 銃猟の実施において、非鉛製銃弾を使用する。
	改善点： 時勢により非鉛製銃弾の入手が難しく、一部の従事者は鉛製銃弾を使用した。鳥類へ及ぼす影響への注意喚起等は今後も継続する。
【安全管理】	評 価： 上記「実施体制」により捕獲従事者が安全に実施した。
	改善点： 今後も継続して実施する。
3. その他の事項に関する評価及び改善点	

積雪の無い時期にくくりわなを設置する、また、繁殖期にあたる秋期に実施すれば、警戒心が下がったシカを捕獲できる可能性が高まり、従前を上回る捕獲効率が期待できる。特に石鎚山系での捕獲においては、9月及び10月の捕獲効率が最も高かった。したがって、生態及び季節性の移動状況の把握に努め、捕獲開始時期を早めることを必要とする。

4. 全体評価

銃器及びくくりわなによる捕獲により、82頭の捕獲実績があり、目標を上回る実績となった。今後も継続して目標を達成していく上で、生息密度の高い区域で効率的・効果的な捕獲に取り組む必要がある。また、捕獲従事者を確保するよう認定鳥獣捕獲事業者の育成を行うとともに、ニホンジカの生態に基づく、有効な捕獲箇所及び期間を設定することも必要である。

○第二種特定鳥獣管理計画の目標に対する、本事業の寄与状況について

本事業における捕獲頭数は、狩猟、市町の有害鳥獣捕獲の頭数に上積みされるものであるが、第二種特定鳥獣管理計画（第4次愛媛県ニホンジカ適正管理計画）で定める年間捕獲目標頭数11,000頭の1%未満である。本県のニホンジカ個体数を平成26年度の半数に近づけるために本事業が寄与するには、更なる捕獲の強化を図る必要がある。

4. 必須となる記録項目

（1）データの整備状況

ア）基礎となる記録項目の整備状況

項 目	整備状況	備考
①捕獲数・目撃数・捕獲努力量等の位置情報	☒ 行政区域（都道府県・市町村）ごと ☒ 事業区域ごと ☒ 5kmメッシュ ☐ 1kmメッシュ ☐ 捕獲地点（緯度経度） ☐ 捕獲等に関する位置を記録していない	
②捕獲数	☒ 捕獲した個体の総数 ☒ 雌雄の別 ☒ 幼獣・成獣の別 ☐ その他捕獲した個体に関する情報（ ）	
③目撃数	☒ 作業の従事者が目撃した個体の総数	
④捕獲努力量	☒ 銃猟：のべ作業人日数 ☒ わな猟：わな稼働日数 （わな稼働日数＝わな基数×稼働日数）	

イ）捕獲に関する概況地図の作成の可否

	作成できる概況図（地図）についてチェック
捕獲位置の地図	☒ 5 kmメッシュ地図 ☐ 1 kmメッシュ地図 ☐ 地点（緯度経度）地図 ☐ 捕獲位置の地図を作成できない
CPUE の地図	☐ 5 kmメッシュ地図 ☐ 1 kmメッシュ地図 ☐ 地点（緯度経度）地図 ☒ CPUE の地図を作成できない
SPUE の地図	☐ 5 kmメッシュ地図 ☐ 1 kmメッシュ地図 ☐ 地点（緯度経度）地図 ☒ SPUE の地図を作成できない
概況図を作成する 上での課題	特になし

（２）実施結果（必須となる記録項目）

ア）捕獲努力量に関する事項

①銃器による捕獲

外業の人日数総数： ---人日

事前調査人日数概数： ---人日

出猟（捕獲作業）人日数： 255 人日

項 目	令和 6 年 (事業年度の値)	令和 5 年 (前年度の値)	増減の傾向
捕獲努力量（巻き猟） のべ人日数	218 人日	207 人日	☒ 増加 ☐ 減少
捕獲努力量（忍び猟） のべ人日数	37 人日	44 人日	☐ 増加 ☒ 減少

②わなによる捕獲

外業の人日数総数： ---人日

事前調査人日数概数： ---人日

出猟（捕獲作業）人日数： 201 人日

項 目	令和 6 年 (事業年度の値)	令和 5 年 (前年度の値)	増減の傾向
捕獲努力量（わな猟） わなの稼働総数（わな基×日数）	4,262 基日	2,971 基日	☒ 増加 ☐ 減少

イ）捕獲に関する結果

①銃器による捕獲

項 目	令和 6 年 (事業年度の値)	令和 5 年 (前年度の値)	増減の傾向
① 捕獲数	48 頭	49 頭	☐ 増加 ☒ 減少
② 目撃数	80 頭	89 頭	☐ 増加 ☒ 減少

③雌雄比 (雌捕獲数／全捕獲数)	0.35	0.29	☒ 増加 ☐ 減少
④幼獣・成獣比 (幼獣数／全捕獲数)	0.13	0.1	☒ 増加 ☐ 減少

令和6年度指定管理鳥獣捕獲等事業における捕獲手法別（銃器）の捕獲実績

捕獲手法	捕獲実績	作業人日数	CPUE	SPUE
☐ 誘引狙撃	頭	人日	頭/人日 ☐ 増加 ☐ 減少	頭/人日 ☐ 増加 ☐ 減少
☒ 巻き狩り	13 頭	218 人日	0.060 頭/人日 ☐ 増加 ☒ 減少	0.14 頭/人日 ☒ 増加 ☐ 減少
☒ 忍び猟	35 頭	37 人日	0.95 頭/人日 ☒ 増加 ☐ 減少	1.46 頭/人日 ☒ 増加 ☐ 減少
☐ モバイルカリング	頭	人日	頭/人日 ☐ 増加 ☐ 減少	頭/人日 ☐ 増加 ☐ 減少
☐ 夜間銃猟	頭	人日	頭/人日 ☐ 増加 ☐ 減少	頭/人日 ☐ 増加 ☐ 減少
☐ その他 ()	頭	人日	頭/人日 ☐ 増加 ☐ 減少	頭/人日 ☐ 増加 ☐ 減少

②わなによる捕獲

項 目	令和6年 (事業年度の値)	令和5年 (前年度の値)	増減の傾向
① 捕獲数	34 頭	33 頭	☒ 増加 ☐ 減少
②雌雄比 (雌捕獲数／全捕獲数)	0.32	0.66	☐ 増加 ☒ 減少
③幼獣・成獣比 (幼獣数／全捕獲数)	0	0	☐ 増加 ☐ 減少

令和6年度指定管理鳥獣捕獲等事業における捕獲手法別（わな）の捕獲実績

捕獲手法	捕獲実績	わな稼働総数	CPUE
☒ くくりわな	34 頭	4,242 基日	0.83 頭/100 基日 ☐ 増加 ☒ 減少
☐ 箱わな	頭	基日	頭/基日 ☐ 増加 ☐ 減少
☐ 囲いわな	頭	基日	頭/基日 ☐ 増加 ☐ 減少
☐ その他	頭	基日	頭/基日

(ICT くくりわな)			☐ 増加 ☐ 減少
---------------	--	--	---

ウ) 捕獲個体の適切な処理

処理にかかる人工概数： -----

処理した個体のうち、食肉等への活用した個体の数量概数： ---- 個体

適正な捕獲が実施されたかを確認する手法

捕獲記録のほか、尾を切取り、捕獲場所を所管する県地方局・支局森林林業課（森林林業課駐在）で確認した。